

クワン四国

No.1173
2017年
12月号

- 特集1 第41回全国育樹祭** 全国育樹祭「おもてなし広場」で香川所が国有林PR「2017ウッディフェスティバル」に参加
- 特集2 高知県立林業大学校における人材育成に向けた協定締結**



11月22日、四国森林管理局と高知県は、高知県立林業大学校における人材育成に向けた連携・協力に関する協定を締結しました。(写真:左から、高知県尾崎知事、隈研吾氏、野津山四国森林管理局長)

目次

・特集1「第41回全国育樹祭」	2
全国育樹祭「おもてなし広場」で香川所が国有林PR	3
「2017ウッディフェスティバル」に参加	4
・特集2 高知県立林業大学校における人材育成に向けた協定を締結	5
・「千本山風景林散策と魚梁瀬森林鉄道国指定重要文化財巡り」開催	6
・国有林モニター勉強会を開催	6
・高知県木造住宅フェア 第13回もくもくランド2017開催	7
・ヤナセ天然スギのへり集材を実施	8
・地方公共団体出向者会議を開催	8
・各地のたより	9
・「わたしの美しの森」フォトコンテストのお知らせ	11
・シリーズ 四国の森林からこんにちは	12



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2052
FAX 088-821-4834
H P <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

特集1

「第41回全国育樹祭」

〈技術普及課〉

11月19日、香川県まんのう町において、皇太子ご夫妻御臨席のもと「森を育てる豊かな暮らし 森が育む確かな未来」をテーマに「第41回全国育樹祭」が開催されました。



皇太子同妃両殿下によるお手入れ

全国育樹祭は、昭和52年以来、全国各地から緑化関係者等の参加を得て、皇太子同妃両殿下によるお手入れ（全国植樹祭において天皇皇后両陛下のお手植え・お手播きにより成長した木の枝打ち等）や参加者による育樹活動等を通じて、国民の森林に対する愛情を培うことを目的に毎年開催されています。



齋藤農林水産大臣によるみどり（苗木）の贈呈

式典では、皇太子殿下が「森と共にある豊かな暮らし、そして、豊かな未来がここ香川の地から全国へと大きく広がっていくことを願い、私のあいさつと致します。」とお言葉を述べられた後、「ヒノキ」の枝打ちや「クワガネモチ」に肥料を与えるなどのお手入れをされました。

四国森林管理局からは野津山局長を始め、関係職員らが式典及び18日に開催された「緑の少年団発表会」「育林交流集会」等の共催行事に出席しました。

式典会場に併設された「おもてなし広場」では、地元の香川森林管理事務所がブースを出展し、「四国の国有林」や「四国森林管理局の事業概要」について紹介するとともに、香川森林管理事務所管内にある名所をドローンで空撮してその映像を流し、美しい郷土の森林をPRしました。

また、育樹祭においては、記念行事として、機械化による林業の効率化を普及するため全国の林業機械メーカーが最新の林業機械等を展示・販売する「森林・林業・

環境機械展示実演会」が開催されており、今回は四国森林管理局からもブースを出展しました。

今回のテーマは「森林をシカ食害から守る四国森林管理局の取組」であり、森林技術・支援センターが開発した「小型囲いわな」を展示し、その仕組みや取組を説明しました。

加えて、今年8月、梶原町がシカ肉を地域資源として有効活用するため日本初の移動式解体処理車



「小型囲いわな」の説明

(通称：ジビエカー)を導入したことに併せて、四万十森林管理署と梶原町及び梶原町猟友会が、森林の被害の防止とシカ肉等のジビエ活用を推進することを目的とした「シカ被害対策及びジビエ活用推進協定」を締結したことから、先進的な取組事例の紹介として、ジビエカーの開発業者である長野トヨタの協力を得てジビエカーの展示を行いました。

来場者は、森林を荒らすシカを捕獲するだけでなく、肉を有効利用することで更に捕獲への意欲を高め、森林の保全を一層推進していくという試みに大変興味を示していました。

更に、「お山ん画」作者でおなじみの平田美紗子画伯(林野庁職員)が会場に駆けてつけてくれ、鮮やかなパネルと可愛らしいイラストや漫画で森林の働きや林業についてわかりやすく解説してくれました。

今回の「森林・林業・環境機械展示実演会」への出展社数は過去

最高とのことであり、初日の入場者数も1万人を超えていたということから、森林・林業が今後の成長産業として期待されていることを実感しました。

全国育樹祭「おもてなし広場」で 香川所が国有林PR

〈香川森林管理事務所〉

10月19日(日)、香川県まんのう町の県立満濃池森林公園で開催された第41回全国育樹祭会場内では、県内外から訪れた約5千人の参加者をもてなすため、駐車場から式典会場の間に「おもてなし広場」が設けられ、讃岐うどんをはじめ県内各地の名産品が振る舞われたり展示される中、香川森林管理事務所も出展し国有林のPRを行いました。

広場中央付近に割り当てられたブースには、森林づくりや木づかいの大切さを伝えるパネル展示、360度カメラの体験とともに、60インチのモニターを設置し、この日のために

撮影した「ドローンで見る香川の国有林」の映像を上映しました。内容は、①広く県民から親しまれている屋島、飯野山(讃岐富士) 国有林を上空から眺めた姿、②日本の巨樹100選にも選ばれている「大屋敷のケヤキ」、③高性能林業機械を使った木材生産や暑い夏場に行う下刈り等の森林整備作業風景、④暮らしの安全・安心を守る治山工事で、当所の若手職員が中心となって説明役を務めました。



多くの皆さんにお立ち寄りいただきました

開場直後から広場はたちまち大賑わい、参加者には自然愛好家や林業関係者も多いだけに映像やドローンに大いに興味を示され、質問が次々とびだすとともに、「見慣れている平坦な屋島も視点を変えて眺めると思いがけない迫力がある。」「讃岐富士の山頂を上から見るとは初めて。」「大ケヤキの姿は幽玄。樹冠を初めて見た。」「高性能林業機械を使った作業の様子を真上から見ると工程がわかりやすい。」「県道の下にこんな大きな崩壊地があったとは。治山工事



ドローンとその映像に興味を示される齋藤農林水産大臣



みどりの女神（野中葵さん）と地元・栗田まんの町長もお立ち寄り

の有り難さがよくわかる。」といった感想が寄せられました。

そして、式典前には貴重な時間を割いて齋藤健農林水産大臣や沖修司林野庁長官も立ち寄られ、映像をご覧いただくとともにドローンの操作や活用方法等について熱心なご質問をいただきました。

式典後は、リラックスした参加者でふたたび広場は大賑わい、当所ブースも大変多くの方々にお立ち寄りいただき、大盛況のうちに終了することが出来ました。

「2017ウッドディ

フェスティバル」に参加

〈香川森林管理事務所・技術普及課〉

10月7日、8日の2日間、「香り豊かな 香川のヒノキ」をテーマに「2017ウッドディフェスティバル」がサンメッセ香川を会場に開催され、香川森林管理事務所も参加しました。

今回のウッドディフェスティバルは、30回目となる記念の年であり、また第41回全国育樹祭記念行事として開催されました。香川県木材需要拡大協議会が主催となり、県産ヒノキの普及・需要拡大を目的に開催、製材加工センターや木造住宅設計士、家具や建具の関係団体等30以上の団体が出展し、新築やリフォーム、震災対策等、木材を使った建築に関する様々な相談はもとより、「ヒノキでわくわく体験」「親子木工ワークショップ」「チップの海での宝探し」「丸太切り競争」など盛りだくさ



ビンゴゲームに長蛇の列

んのイベントが行われ、2日間とも大勢の家族連れ等で賑わいました。

毎年参加している香川森林管理事務所では、森林づくりや木づかいの大切さを伝えるパネル展示とともに、技術普及課から応援をいただき「ビンゴゲーム」や「木工教室」を実施。ビンゴゲームでは賞品の「ジーゼミ」や「ケロケロカエル」を手に入れようと、開幕早々から大勢の親子連れが長蛇の列をつくるなど、始終歓声が絶えない大盛況ぶり

でした。

また、木工教室でも子どもたちが思い思いのハロウィン飾りに夢中となり、次から次へと個性豊かなハロウィンの飾りができあがり、親御さんからも「素敵!」、「さっそく飾ります。」と大好評でした。

香川所のブースには2日間で1000人を超える親子連れが訪れ、フェスの盛り上げに大いに貢献できたと思います。

また、今年新たに企画された「ヒノキでわくわく体験」は、小学生を対象に、ヒノキの苗木の植栽から伐採、かなな等製材体験、ミニハウスの組立までと、木を育て、木材として利用するまでを体験できるミニツアーになっており、そのツアーガイドを香川林業女子会が担当し、当所の職員も林業女子会メンバーとして、小学生にわかりやすくわくわく体験のツアーガイドを務めました。

香川県では、民有林もこれから本格的な伐期を迎えていくことから、



林業女子会ツアーガイド

当所では来年以降も盛り上げに協力していきたくと考えています。

特集2

高知県立林業大学校における 人材育成に向けた協定を締結

〈技術普及課〉

11月22日、四国森林管理局と高知県との間で、高知県立林業大学校における人材育成に向けた連携及び協力に関する協定を締結しました。

高知県立林業大学校は、平成27年度に開校し（基礎課程20名）、林業・木材産業を担う人材育成機関として重要な役割を果たしています。平成30年4月には、基礎課程に加え新たに専攻課程（森林管理・林業技術・木造設計の3コース。各コース10名程度）を設置し、隈研吾氏を初代校長にお迎えし、高知県立林業大学校として本格開校します。四国森林管理局では、実習のためのフィールドの提供、講師の派遣及びカリキュラムの編成等に協力し、林業・木材産業の成長産業化、森林資源の循環利用及び地域の発展に貢献していくこととしています。

11月22日には、新校舎の落成式が行われ、高知県尾崎知事、隈研吾氏に加え、大勢の来賓が出席。四国森林管理局からは、野津山局長が式典やセレモニーに出席しました。新校舎は、木材をふんだんに使用した木造2階建てで、CLT棟、耐火棟、在来工法棟、キャノピー棟から構成されており、木の香りのあふれる素晴らしい建物に多くの出席者が魅了されました。



林業大学校の新校舎



テープカットで完成を祝う関係者

「千本山風景林散策と魚梁瀬森林鉄道国指定重要文化財巡り」開催

〈技術普及課〉

11月11日「四国山の日」に、公募による参加者19名を対象に、日本森林林業振興会高知支部との共催による、「千本山風景林散策と魚梁瀬森林鉄道国指定重要文化財巡り」を開催しました。

今年度は、林野庁が、「観光資源としての潜在的魅力が認識されるレクリエーションの森」として、全国から93ヶ所を「日本美しの森お薦め国有林」として選定し、千本山風景林もその一つに選ばれました。また、魚梁瀬森林鉄道を含む高知県中芸地区(安田町・田野町・奈半利町・北川村・馬路村)にある文化財やユスなどからなるストーリー「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」ユスが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化」が日本遺産の認定を受けており、これらを記念して、「四国山の日」のイベントとして開催しました。

高知市内から馬路村に向かう道中は「中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」が作成した「魚梁瀬森林鉄道」の貴重な映像を鑑賞しながら、木材の搬出という重要な仕事を担いつつ、当時の人々の足としても活躍した雄姿に思いを馳せました。

安田町に到着後は、「馬路村公認むらの案内人クラブ」の清岡さん

をお迎えし、魚梁瀬森林鉄道の遺構や千本山風景林を案内していただきました。何十年も変わらぬ姿でたたくむ才オム力工隧道や機関車の変遷に伴い形を変えた橋梁など、史実や遺構の構造の話を、新旧写真を織り交ぜてわかりやすく説明してください。また、その端々で披露されるユーモアあふれる小話に、参加者はすっかり話に引き込まれていました。

魚梁瀬の丸山公園では、貴重な「野村式」機関車が出迎えてくれ、参加者は、紅葉の中、復元された森林鉄道に乗って、暫し列車の旅を楽しみました。その後、アメゴや柚子を使った郷土料理のお弁当をいただき、最終目的地の千本山風景林散策に向かいました。



魚梁瀬森林鉄道体験乗車

千本山では、登山口にある森の巨人たち百選にも選ばれている「千本山橋の大杉」に挨拶した後、清岡さんの楽しいガイドにより疲れることもなく、

標高900mにある展望台まで足取りも軽やかに登り切りました。



千本山風景林散策

見るものを圧倒させるスギの巨木たちと鮮やかな紅葉、青く晴れた空に澄んだ川の水。参加者は皆、山の自然の美しさに魅せられているようでした。

千本山をバックに名残惜しうに写真を撮る人、貴重なヤナセスギで作られた小物を買って求める人、参加者の方々にとって特別な一日になったのではないのでしょうか。

主催者側にとっても心に残る「四国山の日」となりました。

国有林モニター勉強会を開催

〈企画調整課〉

11月7日、徳島県三好市祖谷地区において、平成29年度第2回国有林モニター勉強会を開催しました。当日は、

好天にも恵まれ、四国各地から国有林モニター16名が参加されました。

開会にあたり江坂次長から、「実際に治山事業現場や森林の状況を見ていただき、国有林や森林についての理解が深まる勉強会になれば幸いです。」との挨拶がありました。

はじめに、「木の文化」を支える取組の紹介として「祖谷のかずら橋」を見学しました。多田徳島森林管理署長より、地域の観光名所であるかずら橋の維持のために、橋の架け替え用資材である「シラクチカブラ」の安定的供給や資源育成等の取組について説明した後、実際に橋を渡ったり散策したりしました。



祖谷のかずら橋の見学

午後からは、治山事業実施箇所である榎尾地区において、国が直轄事業で行っている地すべり対策工事について、田上総括治山技術官と菊池治山技術官より、事業地区の全貌を

眺めながら、施設の概要や事業の必要性等の説明を大きなパネルを用いて行いました。

その後ヘッドライトを装着して、通常は施設されて入ることが出来ない排水トンネルの内部や、直径が約3mの巨大な集水井を見学しました。



排水トンネルの見学

モニターの方々は、各見学箇所のほか移動中の説明にも大変熱心に聞き入っておられ、また見学箇所以外の二ホンジカの食害等についても質問が及び、説明を加えるなど国有林や森林・林業について、理解を深めていただけたと思います。

高知県木造住宅フェア第13回 もくもくランド2017開催

〈技術普及課〉

10月28日～29日に「広げよう木づかいの輪」をテーマに高知市中

央公園にて「第13回もくもくランド2017」が開催されました。

オープニングセレモニーは、朝からあいにくのお天気でしたが大勢の来場者があり、野津山局長をはじめ関係者が挨拶の後、テープカットならぬのぎりを手にしての丸太カットを行い、恒例のもち投げからスタートしました。



オープニングセレモニーで挨拶する野津山局長

高知県産材の普及を目的に開催されたこの催しは、住宅関係の企業や木製品を扱う企業等、様々な業種のブースが60店舗余りあり、それぞれが親子連れで楽しめるものになっていました。

四国森林管理局のブースでは、昨年に引き続き、四国山の日賞受賞者の紹介パネルの展示と、「木のおもちやで遊ぼう」をテーマに、クイズ、ビンゴゲーム、ドーナツ飾り作りが行われ、200名以上の親子連れが訪れました。

また、ラジオ放送では、野津山局長による四国森林管理局の取組や安藤技術普及課長補佐のブースの紹介によって、四国森林管理局の活動を積極的にPRしました。

2日目は、台風22号の影響により中止となりましたが、このイベントを通じて多くの人々に、木のぬくもりや良さを伝えることが出来たと思います。

ヤナセ天然スギのヘリ集材を実施

〈資源活用課〉

安芸森林管理署魚梁瀬・西川森林事務所管内の和田山国有林において、ヘリコプターによるヤナセ天然スギの集材作業を実施しました。

ヤナセ天然スギについては、継続的、計画的な伐採及び供給を平成30年度より休止することとされており、計画期間の最後の年となる今年度、上層木に被圧されている中下層木のスギ・ヒノキの成長を促すための間伐を実施しました。1ヶ月間ほど現地において乾燥させ、11月上旬に約500mを林内からヘリコプターによる集材作業を行いました。

ヘリコプターの機体は最大吊り上げ重量5tのロシア製大型ヘリコプター「カモフ」を使用。伐採木を高強度の繊維ロープで吊り上げ、パイロットと地上担当者とは互いに無線でやりとりしながら往復3分程度

で集材作業を繰り返し、集積場へと次々と運び込みました。

天候にも恵まれ順調に集材が終了し、今回搬出されたヤナセ天然スギについては、今後、銘木市場において順次販売予定としています。



集積場に運び込まれたヤナセ天然スギ

ヤナセ天然スギのヘリコプター集材を見学

〈四万十森林管理署 室町爽子〉

安芸森林管理署管内の和田山国有林において、魚梁瀬スギのヘリコプター集材を見学する機会をいただきました。残念ながら伐倒を見学することはできませんでしたが、魚梁瀬スギを実際に目にするのも、ヘリコプターによる集材作業を見るのも今回が初めてで、大変貴重な経験となりました。

実際に見る魚梁瀬スギの大きさや



集材されるヤナセ天然スギ

集材速度が1往復3分程度と想像していたよりも速く、スムーズな集材作業であったことが特に印象的でした。

また、魚梁瀬スギの販売額について、5年前は7〜8万円/m³だったとお話も伺いました。平成4年には約60万円/m³で取引されていたことから、今日の林業経営の厳しさを再認識するとともに、今後の森林・林業のあり方について考えるきっかけともなりました。今回学んだことを今後の業務の糧にしていきたいと思います。

地方公共団体出向者会議を開催

〈総務課〉

11月16日、四国森林管理局において、地方公共団体出向者会議を開催しました。

この会議は、四国局管内の県・市町村に出向している職員から、出向先での業務の概要や特に力を入れている取組などの各種情報提供と併せて、国有林に対する意見・提言を受けるなど、幹部との意見交換を図ることを趣旨として開催しているものです。



出向者の皆さん（写真左）

冒頭、野津山局長から、「出向者の皆さんは、高知県・大豊町・梶原町・馬路村において重要なポストで活躍を頂いている。私も徳島市へ出向し、いろいろな取組を行った経験があり、出向者の皆さんも四国森林管理局・森林管理署等と連携し、国有林のフィールドや人材を活用しながら、様々な取組にチャレンジしていただきたい。」との挨拶がありました。

続いて、①馬路村地方創生課の川合課長より、「馬路村における移住・交流の推進について」と題して、馬路村の人口減少が続く中、移住や交流人口の拡大への取組等についての説明、②高知県林業振興・環境部の川村副部長より、第3期高知県産業振興計画の林業分野における5つの柱の概要と、5つの柱の一つである「木材需要の拡大」の取組として、林業大学校新校舎はじめとする高知県

内のCLTを活用した木造建築の事例等についての説明、③梶原町産業建設課の入交参事より、「雲の上の町の森づくり」の取組として、高知県、梶原町森林組合、民間企業との協働事業である木質バイオマス地域循環モデル事業の概要や農林業の担い手の育成・確保を目的とした「ゆすはら産業担い手育成塾」の活動状況、梶原町森林組合のFSC認証森林を活用した製品外商販売の取組等についての説明、④大豊町プロジェクト推進室の若林主幹より、大豊町で担当している伐採届の受理や森林経営計画等の認定等の許認可業務、高性能林業機械導入や造林事業費補助などの国・県の補助金業務、林業担い手育成対策事業や自伐林家支援報償費等の町独自の補助金業務等についての説明がありました。

また、今回は大豊町から四国局に出向している計画課の佐藤企画係長も参加し、各課の役割が明確に分かれている四国局と、様々な業務を幅広く行う市町村業務との違いについて、所感を交えての説明がありました。

翌17日は、現地見学として嶺北森林管理署管内の森林環境保全整備事業（誘導伐）と造林事業（植付）の一括発注箇所の現場を見学しました。局森林整備部吉良（康）企画官より、四国局管内の一括発注の取組

メリット・デメリットなどの説明を行い、今後更に必要な取組を進め、民有林への情報共有等に努めたいとの話がありました。



現地を見学する参加者

続いて、嶺北森林管理署森下主任森林整備官より、当現場は共同施業団地の協定箇所であり、民有林所有者も今後利用する作業道について、意見を取り入れるなど、国有林野事業として立派な施業を行いたいとの話がありました。

出向者からは、1日当たりの作業道作設距離や、コンテナ苗の植付利点の質問が出されました。

今回の地方公共団体出向者会議において、お互いの取組、意見交換によって、視野を広げ、民有林と国有林が連携して、協力していくよう確認して会議を終了しました。

各地のたより



各地のたより 目次

- 山岳地における救助・災害対応訓練を実施～ドローンの活用・連携を目指して～
- 市町村林務担当者等を対象にした路網作設技術現地検討会
- 2校で年間を通した森林環境教育を実施
- しまんと黒尊むらまつり
- 屋島東小学校で森林教室プログラムを実施
- 3校で八面山登山体験学習
- 奈半利小学校 野根山街道散策

山岳地における救助・災害対応訓練を実施～ドローンの活用・連携を目指して～

〈安芸森林管理署〉

11月29日、安芸警察署と安芸森林管理署の合同による「山岳地における救助・災害対応訓練」を行いました。今回の合同訓練は、9月に当署で行ったドローンのデモ飛行を見学した安芸警察署からの呼びかけにより実現したもので、『安芸地域に大規模な山地災害が発生し、安芸市の国有林で足を負傷して下山できなくなった登山者から安芸警察署に救出要請があり現地向かう途中、林道が崩落していたことから、当署にドローンによる捜索の要請が行われた』という想定で行いました。

合同訓練には、安芸警察署から署長をはじめとする7名、当署から署長以下5名が参加し、まず、先発隊の安芸警察署の職員から現地が国有林であること、林道が通行不能であることを確認し、当署にドローン捜索の応援が要請され、後発隊と共に現地に集合しました。

到着後、林道崩落（想定）箇所まで移動し、当署職員が操作するドロー



ドローンで撮影した様子を確認する参加者

ンにより、林道に沿って空から捜索が行われ、遭難者を発見するとともに、遭難者へ至る林道及び林道上部の安全確認を行い救助活動における危険箇所を把握し二次災害防止への支援を行いました。また、ドローンによる無線機の運搬にも挑戦しました。

安芸警察署からは、「被災者の発見までが短時間であること、無線機の運搬が可能であれば被災者の声を聞くことが出来るため救助活動に非常に効果的」との意見がありました。当署ではドローンを災害調査やシカ防護網の点検、森林調査等に活用していますが、今後、管内の警察署や消防署等と連携し、山岳救助や災害対応など様々な対策にも取り組んでいきたいと考えています。

市町村林務担当者等を対象にした路網作設技術現地検討会

〈徳島森林管理署〉

徳島森林管理署では、10月に市町村林務担当者、林業事業者等を対象にした作業道作設技術の向上を目的とした現地検討会を行いました。

現地検討会には、三好市林務担当者、徳島県西部総合県民局、林業事業者、民有林所有者など37名が参加し、既設路網と新設路網とを組み合わせた効果的な路網線形の検討、路網作設時の効果的な水処理や、効率的な路網を活かした集材方法などについての検討を行いました。

検討会では、検討会フィールド説明、実際に作業道作設、伐倒・集材作業等を行っている事業者からの説明に続き、参加者全員で実際に現地を踏査し、既設路網を活かした新たな路網ルートの考え方、湧水地点での水処理などについて、活発な意見



現地で活発な意見交換を行いました

交換を行いました。検討会参加者からは、「壊れない作業道は、いかに適切に水処理を行うかが左右する」などの意見がでました。

2校で年間を通した森林環境教育を実施

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

9月26日に松野町立松野西小学校4年生15名、また、11月14日には宿毛市立小筑紫小学校5年生13名を対象に、2校とも第4回目の森林環境教育として「土にすむ生物」と「水の土壌浸透実験」を実施しました。

最初に、「土にすむ生物」の講義で土の中の生き物の役割について説明しました。

「土にすむ生物」の観察では、実体顕微鏡を覗きながら肉眼では見ることのできない土壌微生物などの生き物を見つけてはスクリーンにその姿を映して観察しました。この講義と観察を通して土にすむ生物の存在に気づくとともにその働きを学習しました。

次に、「水の土壌浸透実験」で、山の模型を使って「木のある山」と「木のない山」を再現し、2班に分かれてジョウロに入れた水を雨に見立てて降らせ、時間の経過とともにどの様に変化するか実験・観察をしました。

実験後にはパネル等を使って、森林には「水を蓄える」、「土砂崩れを防ぐ」など大切な働きがあることをふりかえり学習しました。



水の土壌浸透実験の様子

最後に児童から「山の模型の実験と観察で、森林は緑のダムという話に本当だと感じました。私は木のある方に住みたいと思いました。」等の感想があり、森林環境教育を複数回積み重ねて実施した結果、児童の森林のはたらきや身近な自然の大切さについての理解と関心が深まったと考えます。

しまんと黒尊むらまつり

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

11月11日、四万十市西土佐黒尊の黒尊親水公園で第12回目となる「しまんと黒尊むらまつり」が、自然との共生や地域の盛り上げを図る黒尊川流域の住民グループ「しまんと黒尊むら」と「四万十くろそん会議」の主催で開催されました。当センターからは、「体験コーナー」の担当で参加しました。

当日は秋晴れの晴天となり土佐清水市や黒潮町からの団体客など沢山の来場者で賑わい、イスノキ製のマイ箸作り

やミズメなどの小枝や杉板の輪切りを使ったゆるキャラなどのストラップ作りを通して木に親しんでいただきました。



体験コーナー（マイ箸作りとゆるキャラなどのストラップ作り）の様子

会場では黒尊川流域の各地区の人間が地元の食材を使ったイノシシ汁やシカの串焼き、つきたての餅などを販売し、来場者が買い求めてはおいしいと舌鼓を打っていました。また、会場を盛り上げる西土佐みもの太鼓の演奏会も行われ、最後のお楽しみじゃんけん大会では勝者に地元の農産物や加工品などビックな景品が貰えるとあって参加者も見ている人も大興奮し、終日会場は大変賑わいで、秋が深まりつつある黒尊川流域での一日を満喫されました。

屋島東小学校で森林教室プログラムを実施

〈香川森林管理事務所〉

10月31日、屋島国有林「遊々の森」で屋島東小学校の3年生（16名）・4年



立派な秘密基地ができました

生（32名）を対象に森林教室を実施しました。今回のプログラムは「森の秘密基地づくり」。初めて行う体験に興味津々だった児童たちは、森林の中で思い切り体を動かし木々とふれあう活動を通じて、森林が果たしている役割について楽しく学びました。

冒頭に、森林において活動する際の注意点を説明。危険な生物について質問したところ、「イノシシ!」、「ハチ!」、「ヘビ!」など次々と言い当てるとともに、地面の凹凸や谷川にも注意が必要であることも答えてくれました。

次に、秘密基地作りにあたって、その目的や作り方、注意事項について、パネルを使うとともにあらかじめ所員が作ったお手本?をよく観察してもらいながら説明。3年生が2班、4年生が3班に分かれて、さっそく基地作りに取りかかりました。

まずは、林内を駆け巡り、友達と相談しながら設置場所を決定。みんなで試行錯誤、悪戦苦闘を繰り返し完成した秘密基地には、職員のお手本とは、

比べものにならないような工夫がされているなど立派なものが出来上がり、先生方や職員も子どもたちの創造力に驚かされました。

最後に、今日体験したことは、大切な思い出として忘れないようお願いして、無事森林教室を終りました。各班代表の児童からは、「森の中でこんなに楽しい思いをしたのは初めて。ぜひまた自分たちでやってみたい。」など、いずれもいきいきとした喜びの声に寄せられ、森林の役割と楽しみを実感してもらえたようでした。

3校で八面山登山体験学習

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

四万十川の支流で黒尊川源流域の森林である八面山や吊尾根の天然林は、野生生物やシイ・カシ林からツギガ林、ブナ林への植生の移り変わりなどを観察出来るフィールドです。

10月に四万十市立西土佐中学校と西土佐小学校、愛媛県松野町立松野西小学校の3校合計64名を対象に八面山登山体験学習を実施しました。

準備運動の後、登山口を出発し歩道沿いの樹木や二ホンジカの食害などについて学習しながら約50分で八面山山頂（1165m）に到着しました。

山頂では、源流域の森林が川本来の良好な清流を育んでいることを説明し、その後、八面山吊尾根のブナ天然林へ移動して、「ブナ天然林の価値」や「森林のはたらき」などを説明した

後、自然散策やネイチャーゲームなどをしながら秋の一日を楽しみました。下山後に児童生徒から、「学校での事前学習や登山を通して森林の働きや色々な樹木を知ることができました。ネイチャーゲームもとても楽しかったです。」との感想がありました。この森林教室の体験や学習を通して生徒の自然や森林等への理解と関心が深まったと思います。



ブナ天然林内での森林教室の様子



八面山山頂にて、はいポーズ

奈半利小学校 野根山街道散策

〈安芸森林管理署〉

10月27日、奈半利小学校の6年生18名、保護者16名、引率教員2名と、当署より署長外6名で野根山街道散策を実施しました。

この行事は、「自然に親しむ体験」と「地域の歴史学習」を目的として3年以上前から毎年行われている、奈半利小学校の伝統行事です。安芸森林管理署の職員も毎年同行しています。

野根山街道は、奈半利町から東洋町までの山道で、道中には「宿屋杉」



宿屋杉を囲む児童と保護者

という胸高周囲16メートル・樹齢千年以上にもなる大木があります。また、参勤交代や中岡慎太郎脱藩にも利用された歴史ある街道になっています。今回は、宿屋杉登山口から米ヶ岡生活体験学校までの約7kmのコースを、途中休憩を入れつつ4時間ほどかけて歩きました。途中イノシシが作った又々場に興味を示したり、大きなクモに驚いたり、木の表面を覆うコケをはがしてみたりと元気に自然と触れ合っていました。下山後の解散式では、児童の代表より、「野根山の豊かな自然に触れることができ、よい経験となりました。修学旅行と共に小学校生活の思い出作りができました。」との感想が発表されました。地域の児童や保護者の方に国有林と自然を身近に感じてもらえるこの伝統行事、当署としても末永く協力を続けていきたいと思っています。



「わたしの美しい森」フォトコンテストのお知らせ

レクリエーションの森をはじめとする日本国内の森林や山村地域の魅力的な風景・場面を対象とした「わたしの美しい森」フォトコンテストが開催されます。

概要は下記のとおりです。詳細については、林野庁HPをご覧ください。皆様の御応募をお待ちしております。

● 趣旨・目的

観光資源としての活用が期待される「日本美しい森 お薦め国有林」をはじめとする森林・山村の魅力を伝え、これをきっかけに、森林・山村を多くの人々が訪れ、森林・山村への理解・交流が促進され、地域経済の発展に寄与し、また、人々の健康増進や、趣味・生きがいを持った生活など、豊かな社会の実現に貢献する。

● 主催者 「わたしの美しい森」フォトコンテスト実行委員会

(公社)国土緑化推進機構／(一財)日本森林林業振興会／(一財)全国山の日協議会／(一社)全国森林レクリエーション協会／林野庁(国有林野総合利用推進室)

● 募集部門

景観部門：森の／森からの絶景・風景を撮影したもの
生命部門：森で育まれる生命・動植物の営みを撮影したもの
体験部門：森での体験・活動・発見を撮影したもの

● 募集期間

平成29年12月11日(月)～平成30年2月13日(火)

● 表彰

最優秀賞(1点)＝林野庁長官賞、優秀賞(1点)＝実行委員長賞(審査員特別賞)、各部門優秀賞(3点以上)、佳作(1点以上)、地域別優秀賞(7点)＝森林管理局長賞

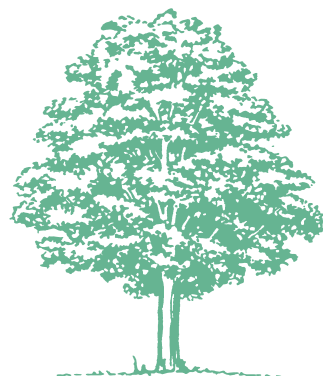


林野庁 HP <http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kokusou/171120.html>

応募細則(応募票) <http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kokusou/attach/pdf/171120-2.pdf>

シリーズ

もり 四国の森林からこんにちは



安芸森林管理署 野根森林事務所

森林官 濱崎 昭和

野根森林事務所は、高知県の東端に位置する安芸郡東洋町から室戸市佐喜浜町にかけての国有林約1600ha、官行造林地約250haを職員2名で管理しています。野根森林事務所管内では、二ホンジカの姿をよく見かけます。幸い若齢林が少なく食害も目立ってはいなかったのですが、来年度以降、新植地も出てくるので、箱ワナでの駆除に今後力を入れたいと思っています。



筆者（右側）

さて、野根森林事務所管内には、室戸ジオパークのサイトに登録されている「段の谷山天然杉群」、「加奈木のつえ」や、四国のみち・歴史の道百選などに指定されている「野根山街道」といった見所があるので紹介します。

段の谷山天然杉群は、段の谷山に伐採されなかった天然杉が点在してユニークな形を見せてくれます。

す。大きなものでは、樹高40m・根回り12mになります。段林道登山口から野根山街道地蔵峠までの登山道周辺には、元職員が愛称をつけた天然杉が33本あり、森林教室で地元の小学生手作りの、かわいい看板を設置してくれています。

加奈木のつえは、日本3大崩壊の一つで、宝永4年（1707年）と、延享3年（1746年）に大崩壊が記録されています。大正6年（1917年）から昭和39年（1964年）まで、約半世紀にわたる治山工事を行い、砂防堰堤73箇所、工費2億5千万円を投じて工事は完成しました。長期間の工事だったので、新旧様々な工法が見られます。

野根山街道は、安芸郡奈半利町から、野根山山系の尾根づたいに東洋町野根まで至る約35kmの古道で、明治40年に室戸岬周りの国道が全線開通するまで、土佐東部の主要街道として利用されてきました。今では遊歩道としての整備も進み、自然いっぱいこの山道、また、歴史が好きな人には、一里塚〜五里塚・お茶屋場・銘木・関所跡などの多くの史跡や伝説・逸話などもたくさんあり、散策イベントも定期的に行われています。興味を持たれた方は気軽に一度、散策してみてくださいいかがでしょうか。



練積堰堤（加奈木のつえ）



段の谷山大杉



段ノ谷山天然杉ガイドマップ

http://www.rinyamaff.go.jp/shikoku/policy/business/route_map/0906dannotani.html